

提携先	(農)旭愛農生産組合	記入日	2008/8/31
登録消費材名	たまご(あいっこ)・鶏卵 7kg・鶏卵 5kg		

．これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

<p>品種について 純国産鶏を飼養 効率重視の外国産鶏ではなく、あくまで日本の風土にあった国産鶏の飼養を続けます。</p> <p>4・飼料について 非遺伝子組み替えの大豆、PHF コーンなど原料にこだわり、添加物を使用せず、自然の素材を自家配合して与えています。</p> <p>5・飼養管理・投薬 誕生 1 日令のひよこから一貫して抗生物質を使用しない育成管理を行い、鶏本来の生命力を高めるよう育成しています。また、鶏舎の清掃にも薬品を一切使用せず、水洗、木酢、クantan(粕殻を炭にしたもの)を使用しています</p> <p>04-1-A-02 04-1-A-03 飼料米の導入・地域循環 生活クラブ千葉との提携で地域循環の一環として、田んぼでの飼料米の育成、そこに鶏糞堆肥を使用し、飼料米を餌に配合するという循環の取り組みを続けています。</p>
--

．前年に努力したことへの評価(成果や課題)

<p>課題として、飼料高騰をどのように克服するかが最重要課題です。飼料の内容の精査や飼育体系の見直し、減羽も含めて経営コストを削減していきます。また、このような事態の中で事故を起こさないように衛生管理や防疫なども徹底して行ないたいと思います。</p>

．上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

<p>4・飼料について 原料の吟味を今後とも怠らないことはもちろん、組合としての品質の向上を目指し、一括して自家配合できる施設の建設に着手しています。施設の完成にともない、今後よりいっそうの飼料の品質向上を目指すため、地場の菌を中心とした醗酵飼料の作成、配合などの研究を行います。また、飼料原料の記録的な高騰を受け、今後はよりコストに合う飼料の作成を検討していきます。</p> <p>5・飼育環境 昨今養鶏業において大きな問題となっている「鳥インフルエンザ」を踏まえ、今までの生産性・効率性を重視した畜産の問題点を再認識し、鶏本来の育成・たまご本来の食味を追及していきます。具体的には平飼い鶏の増羽、地域循環を含めた周辺農家との連携を高め、本来の食文化の再構築を目指していきたいと考えます。</p>
